天の恵みを求めて星とともに生きてきた「いにしえの人」たち

～湖北星空案内～

都市化の荒波に
さらされていない湖北は、
美しい星空が楽しめる
数少ない土地の一つです。
農業、林業、淡水漁業…
天の恵みを生業としてきただけに、
星とともに生きてきた湖北。
その湖北の星空を改めて見直してみませんか。

星空と共に生きたいにしえの人々

日本には1000を超す星の和名があり、世界でも有数の"星空文化"の国だと言われています。いかに星空が暮らしに溶け込んでいるかは星の名称でも分かります。西欧ではギリシア神話などから付けられるのが普通ですが、日本では「鯛釣り星（さそり座）」や「雑煮星（ふたご座）」など、生業や日常生活に関係したものが中心になっています。

農業や漁業では、気温、湿度、日照、降雨、風や潮の流れなど、季節とともに変化する自然環境に大きく依存しており、星空がその時期を知るための暦となっていたのでしょう。例えば、オリオン座の三つ星、すばる星、からす座の四辺形などの位置を見て、稲や麦の種まき、収穫の時期を知る……などです。

このため、農村、漁村など生業の異なる地域によって星の呼び名が違ってくるのが普通で、例えば西洋人はサソリの姿と見た湾曲した星の並びを、漁村の人々は釣り針と見て「鯛釣り星」と呼び、別の地域では違った形に見とって「嫁入り星」と呼びました。

残念ながら、かつての湖北の生活と星座の和名のかかわりを明らかにした研究が数少ないため学術的にははっきりしていませんが、湖北の先人たちの暮らしと星空が大きくかかわっていたことは確かでしょう。

廣瀬一實氏が復元した一貫斎の反射望遠鏡

湖北は日本最初の反射望遠鏡が生まれた地

その象徴とも言えるのが、日本最初の反射望遠鏡が江戸時代後期、長浜（近江国国友村）の鉄砲鍛冶師・国友一貫斎によって作られたという事実です。

この一貫斎の望遠鏡を当時とほぼ同じ材料と製法で復元することにこのほど成功、マスコミを賑わせている人が長浜にいます。国友鉄砲研究会会長で国友鉄砲の里資料館専門員、能當流砲術師範　廣瀬一實さんです。

「設計図から起こし、京大の専門家の協力を得ながら仕事の合間に作業を続けましたので約1年かかりました。製法は当時と同じ張立法（はりたてほう／芯金に青銅板を巻いて筒にしていく製法）。鏡とレンズは京大から提供を受けています」

特に苦労したのは、望遠鏡を支えて方向を変える「雲台」の部分。

「分解して中を見るわけにいきませんので、構造を推測しながら作りました。後日、島津製作所の強力なX線撮影機で確認したところぴったり！　随所に鉄砲づくりのノウハウが用いられており、長年火縄銃の保守にかかわってきた知識が生きました」

この秋には復元第2号機が完成予定で、湖北の小学校などで観測会をすることになっています。

湖北の星空散歩をしてみよう！

「"人の営み"が過密でなく夜空が見やすい湖北は、星空観察の格好の場所です。わざわざ京阪神から出かけてくる天体ファンも少なくありません」と、天体愛好者で湖北の学校などで観察会を開いている中村嘉一さん。

「冬場こそ雪が多く曇天気味なので適しませんが、春から秋にかけては"星見"のチャンスです」

夏場は太平洋高気圧が安定した暑い時期が一番星がよく見えると言います。中村さんのおすすめは伊吹山の駐車場です。

「高い場所ほどいいかというと、そうとは言い切れません。山頂は岐阜方面の都市の明かりが邪魔してかえって見にくいからです」

最初は肉眼観測から。肉眼で星を見続けて近視が治った人もいるといいますから、目の健康にもおすすめです。

「毎年8月12日の深夜にはペルセウス座流星群が現れます。真上を見てください。昨年は1時間に約60個の流星が降りました。今年も流星のシャワーが見られるかもしれません。」

夏の間見られる「夏の大三角形」も入門に最適。8時から9時ごろ頭の真上にはくちょう座、こと座、わし座の3つの星座の明るい星が大きな三角形を描いています。

「肉眼に慣れたら、次は倍率8倍程度の双眼鏡がいいですね。倍率の高い本格的な望遠鏡はうまく星を追尾する必要があるので、初心者には使いにくいですから」

双眼鏡ではまず天の川を！8～9時ごろならほぼ真上を南北に通っています。

「双眼鏡で見れば肉眼では見えなかった暗い星や"星の色"が見えるようになります。天の川の随所に"宝石箱"のようにカラフルで美しい部分があります」

望遠鏡を使えるようになったら、ぜひ干潟星雲（いて座）を見てください。中村さんが中学生のときに見て涙を流したという美しい星雲です。

星見るイベント

「貫斎の復元望遠鏡2号機による「姉川星空観望会」（無料）が10月4日（土）午後6時から姉川スポーツ公園（長浜市国友町地先）で開かれます。最新式の天体望遠鏡も併用、月、木星、土星や秋の星空が楽しめます。お問い合わせ・申し込みは長浜市役所環境保全課（☎65・6513）か国友鉄砲の里資料館（☎62・1250）まで。またウディパル余呉（☎86・4145）でも、木之本ライオンズクラブ寄贈の天体望遠鏡&ドームによる定期天体観測会を計画中。学校での開催やコテージ宿泊客向けの観測会などを予定しています。

撮影：余呉湖

中村嘉一（なかむらかいち）
昭和34年湖北町生まれ
高月町在住
「高月星の会」主催
湖北の小中学校で、夜空や暗闇を子供たちと楽しむ活動を展開

廣瀬一實（ひろせかずみ）
昭和16年長浜市国友町生まれ
主に能當流砲術師範、国友鉄砲の里資料館専門員、国友鉄砲研究会会長など、様々な分野で活躍中

星の美しさに関心を抱かれた方は

国立天文台（http://www.nao.ac.jp/index_J.html）
すばる望遠鏡（http://subarutelescope.org/j_index.html）
国友鉄砲の里資料館
（http://www2.justnet.ne.jp/%7Eteppounosato/index.htm）
などのホームページへどうぞ！　干潟星雲はじめ美しい星の写真がたくさん公開されています。丹生ダムのホームページ（http://www.water.go.jp/kansai/niu）からもリンクで飛べます。これを機に丹生ダムのホームページにもお越しください。